



NO. 233

2012. 11. 15

社会福祉法人 大阪市知的障害者育成会
(別名 大阪市手をつなぐ育成会)
大阪市天王寺区東高津町12-10
大阪市立社会福祉センターB1F
発行責任者 笹野井 庸夫
TEL 06(6765)5621 FAX 06(6765)5623
<http://city-osaka-ikuseikai.or.jp>

**第61回全日本手をつなぐ育成会全国大会
〔高知大会〕が開催されました**

第61回全日本手をつなぐ育成会全国大会〔高知大会〕が10月27日(土)、28日(日)の2日間にわたり、高知県立県民文化ホールを主会場として開催されました。

『ふれあい』では、全国大会の全体会ならびに各分科会の模様を今月号と来月号の2か月にわたりご報告いたします。

なお、第1分科会 地域で共に学び、共に育つ(療育・教育)については大阪市より参加者がいませんでしたので、報告は割愛させていただきます。

◆全体会に参加して

東成区支部 小泉 いと子

地元、高知会員の皆様からの暖かい歓迎を受けて、全国大会に参加させていただきました。今回も、同じ思い、そして願いをもつ会員約2,800人が集まり、熱気に包まれた雰囲気の中で大会がスタートしました。

初めに中央情勢を、全日本手をつなぐ育成会理事長の北原守氏より、「これからの育成会活動」と題し報告がありました。

「21世紀は共生の時代であり、障害者制度の改革は「共生社会の実現である」と述べられました。「受動型から能動型への運動として、障害者のための制度政策要求や権利擁護運動等をさらに発展させる。そして家族・地域・社会の支援を拡充させるよう、(共生社会)の実現の向けての地域づくりを本格化させていきたい。特に障害者の高齢化・重度化や、親亡き後を見据えて障害児(者)の地域生活支援をさらに推進することを観点に置き、ケアホームと統合化したグループホームや小規模入所施設等を含め、地域における居住支援などの在り方について、早急に国・行政関係に検討をおこなうことを要望する。」と締めくくりを述

べられました。私も話を伺い、親として子供達に対する想いが叶うよう、できることから取り組んでいこうと思いました。

記念講演は厚生労働省社会援護局長村木厚子氏に講演していただきました。村木さんといえば「大阪検察特捜部が行った冤罪事件の被害者」として私たちのほとんどが頭をよぎりますが、ご本人は何がなんだか分からないまま抑留されたご自身の体験をどう乗り切ったかをお話しされました。抑留された1日目に弁護士の方に「信念を貫いて頑張れ」と書いた紙を見せられ、来る日も来る日もずっと接見の時は、その紙を持って見せられたそうです。

ご本人は元々とても好奇心が強いことと、自分の仕事柄、危機体験に慣れていた事、そして「今さら、くよくよしても仕方がない、今すぐ出来ることに手をつけて。」、また子育てする時によくつぶやいていた「綱渡り、下さえ見なけりゃこわくない」という言葉を思い出して気持ちを奮い起こしたそうです。その長期に渡る抑留に頑張り続けられたのは、まず自分の頑張り、そして家族、友人やご近所の方々、そしてプロの弁護士の支えがあったからこそと、しみじみおっしゃっていました。そして私たちに「障害のある方たちをとりまく環境でも、本人の生きようとする力を大切に、その尊厳を大切にすることが基本である。そして家族や仲間力で福祉制度をしっかりと作り、今まで親(家族)で支援していたことを親亡きあとも出来る社会をつくり、そして今後大切なことは、地域とつながっての仲間作り、家族・福祉関係者・プロの力・公益の支援・チームの支援やコーディネート等を環境整理する政治の力である。どうすれば、同じ税金でどれだけいい福祉ができるかは、これからの政治の方向性だ」とおっしゃっていました。今までお堅いイメージだった村木さんでしたが、実際にお話をお聞きすると、やさしい心のぬくもりを感じさせる方でした。「やればできる、何とかなる」と勇気を頂きました。

最後に、私ごとですが、今回の大会で推薦を受け表